

芸大コレクション展「大正・昭和前期の美術」

会 場：東京藝術大学大学美術館（〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8）

会 期：2006年4月12日（水）～5月28日（日）41日間

開館時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）

休 館 日：月曜日

料 金：一般 300（250）円 大学・高校生 100（50）円（中学生以下は無料）

*（ ）内は20名以上の団体料金（団体観覧者20名につき1名の引率者は無料）

*障害者とその介護者各1名は無料

*「エルンスト・パルラハ展」（4月12日～5月28日）をご覧のお客様は無料でご覧頂けます

主 催：東京藝術大学

問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）

ホームページ：<http://www.geidai.ac.jp/museum/>

交通案内：JR上野駅公園口、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分。

京成上野駅、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅より徒歩15分。

【展覧会概要】

平成18年度春のコレクション展では、大正から昭和前期にかけての美術に焦点を当て、明治の作品を中心に取上げた従来のコレクション展では触れる機会の少ない、当館所蔵の大正・昭和前期の隠れた名品を、日本画、洋画、工芸、版画からご紹介いたします。「個」と「自由」の重要性の主張、都市文化・大衆文化の開花、社会主義思想や労働運動の隆盛などといった、第二次世界大戦に至るまでの社会・文化の潮流を踏まえながら、そのような繁栄と不安の混在した大正・昭和前期における美術の動向を概観します。

日露戦争の勝利による上昇気流に乗った日本の資本主義経済は、第一次世界大戦の間、好景気を迎え、それに伴い、この時代に出現した中産階級出身者は、深く根ざした封建制を打破し、自我の解放を目指しました。いわゆる、大正ロマンや大正デモクラシーといった、明るい響きを持つ社会の機運は、当然のように、美術にも反映されることとなります。この前向きで野心的な風潮のもと、西欧のフォーヴィスムやドイツ表現主義、キュビズムなどにおける個性表現の尊重はしっかりと受け止められ、画家は自我を独創的な表現で示そうと試みました。日本画における日本美術院再興（大正3年）や国画創作協会の結成（大正7年）、洋画におけるフエウザン会（大正元年）や二科会（大正3年）、春陽会（大正11年）の結成、また、工芸運動の萌芽や、自画・自刻・自摺の「創作版画」運動勃興による版画の芸術性の追求とジャンルとしての確立など、形は異なるものの、反アカデミズムと「自己」表出の傾向は、どの媒体においても見られました。

しかし、この力強い機運には、大正末期から陰りが見え出します。度重なる恐慌、関東大震災（大正12年）などによって日本経済の基盤は揺らぎ始め、それはさらに、日本を悲劇へ陥れる第二次世界大戦へと続いていきます。このような社会の不穏な流れの中、それぞれの媒体は独自の発展を遂げます。洋画では、単なる西洋の模倣ではなく、西洋の表現技法を消化した上での日本独自の様式の開拓、また、未来派、シュルレアリスム、ダダといった前衛芸術の導入が見られます。さらに、この前衛芸術は、社会の潮流の下、労働者などへ焦点を当てた政治的・社会的な前衛へと変化し、それはプロレタリア美術へと発展します。日本画では、洋画に見る西洋美術の動向から新しい刺激を受けながら、古典主義的画風の見直す一方で、モチーフの抽象化・文様化によるモダニズムへの転身を図るなど、固有の秩序と調和を保った形式へと落ち着いていきます。また、工芸ではモダニズムを先導する存在となる「无型」（大正15年）の結成や帝展工芸部の設置（昭和2年）が見られ、版画では日本創作版画協会の活動によって創作版画が普及し、さまざまな版画誌が刊行されます。

このように、明暗両方の側面を持つ大正・昭和前期に制作された作品には、芸術家が自己や社会と奮闘した軌跡が鮮明に表されています。また、そこには、当時は最先端であった都市生活や風俗も描かれており、その時代の人々の日常に触れることもできます。このような時代に描かれた当館所蔵の名品を通して、美術の動向だけでなく、大正から昭和前期における社会・文化全体をご覧になって頂けるでしょう。

展覧会は、日本画、洋画、工芸、版画の各ジャンルによる4章から構成されます。今回、特に注目すべき作品は、版画のコレクションです。これまで一同に並べられることのなかった当館の創作版画のコレクションを大きく取り上げ、近代日本版画の確立と発展の過程を追います。また、本展覧会では、平成16年度に新たに収蔵品となった長谷川潔作品を始め、近年の新収蔵品もご紹介いたします。

【主な出品作品】

高山辰雄「砂丘」、満谷国四郎「女ふたり」、松田権六「草花鳥獣文小手箱」、恩地孝四郎「美人四季 春」、長谷川潔「アレキサンドル三世橋とフランス飛行船」

※前期と後期で一部作品の展示替えを行います。

（前期：4月12日（水）－5月7日（日）、後期：5月9日（火）－5月28日（日））

【貸し出し画像一覧・キャプション】



※ ④は前期のみの展示となります

- | |
|--|
| <p>① 高山辰雄「砂丘」東京藝術大学大学美術館所蔵
② 満谷国四郎「女ふたり」東京藝術大学大学美術館所蔵
③ 松田権六「草花鳥獣文小手箱」東京藝術大学大学美術館所蔵
④ 恩地孝四郎「美人四季 春」東京藝術大学大学美術館所蔵
⑤ 長谷川潔「アレキサンドル三世橋とフランス飛行船」東京藝術大学大学美術館所蔵</p> |
|--|

展覧会についての問い合わせ、画像借用の申し込みは下記までお願い致します。

広報担当 竹林佐恵

Tel: 050-5525-2438 Fax: 050-5525-2532 E-mail: takebaya@off.geidai.ac.jp

展覧会担当 佐藤真実子

Tel: 050-5525-2449 Fax: 050-5525-2533